

テレビの画面からも番組表を取り出すことが出来るようになっていますが、テレビを見ながら見たい番組を探すとき、新聞のテレビ面はなくてはならない紙面です。調べたいとき、すぐに見やすいように、最終面に置いている新聞がほとんどです。狭いスペースにより多くの情報を入れるため、独特の記号を使ったり、文を縮めたり、いろいろな工夫がされています。

まず、テレビ面独特の記号について。

N＝ニュース。天＝お天気情報。再＝すでに放映されたことのある番組の再放送。副＝番組の主音声とは別の音声が聞ける副音声がある放送。手＝手話放送、耳の不自由な人のために、手話通訳が音声を手話で伝える放送。字＝文字放送、番組と同時に文字の情報を画面に流す放送。ステレオ放送＝2つ以上のスピーカーで違う音声を流し、立体感や臨場感を出す放送。二＝二か国放送、日本語と英語など、二か国語の音声を流す放送。多＝音声多重放送。

ほかにも、「～」＝で（場所を表す）、から（時間を表す）。「◇」＝行替えをせずに次の番組を示す。「▽」＝一つの番組の中で、内容の違うものを並べる時に入れる。「×、またはvs」＝試合の対戦相手を表す。これらの記号は文字数を減らしたり、見やすくしたりするための工夫といえます。

番組表の右下の「試写室」は、注目番組の試写を見た記者が見どころを紹介します。文末に筆者名が入っており、番組への記者個人の感想も盛り込んでいます。また、BSなどのチャンネルが増え、最終面で紹介しきれなくなっているため、中面や別刷りなどを使って多くの番組を紹介する新聞が増えています。

（鈴木伸男 全国新聞教育研究協議会顧問）